

医療法人済恵会 広報誌

オアシス70号

広報誌オアシス 制作 広報委員会
〒379-0116 群馬県安中市安中3532-5
Tel.(027)382-3131 FAX (027) 382-6568

平成26年新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。今年が皆様にとりまして良い年になることを祈念しております。さて昨年は2020年東京オリンピックの開催も決まり、景気も上向きとのことで日本は少し元気が出てきているようです。

しかし4月から消費税8%になることが決定し、国民の負担は増えることとなります。そこで医療機関の消費税の問題をお話したいと思います。消費税は最終消費者が払うことになっておりますが、患者さんが服用される薬などにかかる消費税は病院が負担しています。本来であれば患者さんが負担することが消費税の考えからは正しいのですが、医師会としては患者さんの負担が増えることに反対し、消費税が導入されたとき非課税業者になることを選んだのです。そのため患者さんには消費税の負担はなくなりましたが、薬や医療材料の消費税は病院が負担することになっているのです。これまで5%の消費税をなんとかやりくりしていましたが8%、更に10%と増税になると、その負担増加に耐えられなくなる医療機関が出てきます。医療機関の崩壊は地域の住民の方々に大きな不安を生じさせます。病気と闘うとき消費税の心配をしないで済むような政治判断を望みます。

最近の医療政策として厚生労働省は“地域包括ケア”などの言葉で在宅ケアを増やすような医療体制を考えています。かかりつけの診療所の先生が往診をし、訪問看護ステーションから看護師がケアに伺い、また訪問リハビリ、訪問介護などを一元的に行おうという考えです。今後団塊の世代が70代となり、80代となっていくと、今までの病院や介護施設だけでは急増する老人医療、

介護を賄えないという発想からです。

しかし老夫婦二人世帯、老人の単独世帯が急増する中、本当に介護の必要な人に寄り添える人がどのくらいいるのでしょうか？昭和の時代のお舅さん、お姑さんを看取るのが嫁の勤めなどという考えを持てる家庭がどのくらい存在するのでしょうか？これまでの考え方の延長ではすぐに行き詰ってしまうでしょう。しかし年をとればとるほど今まで生活を送ってきた地域で暮らしたいということは多くの方が望むことと思います。安中市の西は碓氷峠です。病気の人が西へ向かうことはまずありません。北も南も丘によって境され本当にまとまった地域です。限られた地域ゆえ医療機関、介護施設、訪問機関などの連携も組みやすいと思えます。住民の方が安心して生活できるシステムができれば日本のモデル地区にもなれると思います。

増税された消費税はすべて医療介護を含めた社会保障に使われることになっていきます。群馬県、国にも積極的に働き掛けていきたいと思えます。医療法人済恵会も病院をはじめ、介護老人保健施設めぐみ、ケアハウスジョリエやなせ、デイサービスさくら、介護付有料老人ホームななかまど、など関連施設をフルに患者さんのために使い、最後まで安中市民の方が安中市で生活できる体制を目指していきたいと思えます。今年も問題は山積みです。頑張ります。よろしくお願い致します。

病院長
須藤 英仁

安中地域の医療を支えるために

一般病棟看護師 神戸 大介

皆さん、こんにちは。一般病棟に勤務しています神戸大介と申します。今回、初めてオアシスに登場です。そこで皆さんに少しでも一般病棟のお話をさせていただきたいと思えます。

皆さんは当院に入院した時にかかっている金額を知っていますか？自己負担額と健康保険を合わせた場合、およそ1日20,000円を病院はいただいております。この金額には薬や点滴などの医療費や食事、個室料金は含まれていません。1泊20,000円となると温泉旅館で1泊できるぐらいのお金をいただいていることとなります。温泉旅館では様々なサービスを受けることができ、高い宿泊費を支払っても満足できると思います。しかし病院で1泊20,000円も支払っていると考えると、皆さんは満足していただけるのでしょうか。もちろん、病院と旅館では受けられるサービスの質は異なっています。病院では安全で充実した医療の提供が前提ではありますが、看護サービスも重要

になります。実は入院費が高額であるのは、看護師の人数の配置が多い体制をとっているからです。

では、なぜ当院では現在の看護配置で運営をしているのでしょうか。それには当院の特性が大きく関わっています。どんなものかという、当院では「地域」に根付いた運営を目指しています。そして安中地域における医療・福祉の中には、急性期医療の需要も存在しています。急性期医療の充実のためには多くの看護師が必要になり、そのため現在の看護配置をとっているのです。

今後、医療制度の改革とともに急性期医療の制度も変化して行きます。日本の病院における急性期病院は減少して行くと考えられています。当院も例外ではなく、現在の体制のままでは、急性期医療を維持することが困難です。当院が急性期医療から撤退することで安中地域における急性期医療体制が大きく崩れてしまい、皆さんに多大なる影響を及ぼしかねません。当院では急性期医療体制の維持が今後の課題となります。

「安中地域の急性期医療はまかせろ！」と、皆さんに言えるように、頑張っています。

老人保健施設めぐみ 新年のご挨拶

支援相談員 新井 寛之

明けましておめでとうございます。朝晩の寒さも一段と厳しくなっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。去年は近隣の皆様に施設の消防訓練への参加や秋祭りでの山車や和太鼓のお披露目など多大なご協力を頂きありがとうございました。さて、私も支援相談員を拝命してから一年が経とうとしております。短い期間ではありますが感じる事として、まだまだ介護サービスがどんなものがあるのか老健とはどんな施設かなど広く知られていない様に思いました。今年は、知っていただく為にも多くの方が参加できる行事などを計画していきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。また、利用者様が安心

して過ごしていただける様に職員一同努力してまいりますのでご指導ご鞭撻ほどよろしくお願い致します。今後どうぞ宜しくお願い致します。



浴衣での職員の出し物の様子です。

秋祭りで大太鼓をご披露いただきました。

